

# はじめに

## ～研究会を始めるにあたって～

嶺重 慎 (京大・理)

研究会を始めるにあたり、研究会の目的や今回の特徴などについて、簡潔の紹介します。

### 1. 研究会の目的

「ユニバーサルデザイン(UD)天文教育」とは、従来の天文教育普及活動でとかく忘れられがちな障害者、病院に長期入院中の子どもたちも含め、あらゆる人を対象とした天文教育活動のことを意味します。この「ユニバーサル」な活動を「共に」進めるための考え方や 方策を、当事者(障害者)、天文研究者、教育者 そのほか 関心ある方々が、対話を通じて深める目的で、本研究会を企画し、開催することになりました。

以上が一般的な説明ですが、さらに踏み込んで議論を深めたいと、個人的には思っています。

天文学の究極の目的は、「私たちは、どこからきたのか」を科学的に解明することといえます。それにならなければ、UD天文教育の究極の目的は、天文学の発展をふまえて、「私たちは、なにものなのだ」を探究する活動と言えましょう。

少し長くなりますが、竜の子学園(現在の明晴学園の前身である学校)のパンフレットから引用します。

(引用ここから)

ろうの子どもたちは「子どもである」という当たり前のことを基本にし、知りたい、学びたいという知的好奇心を育て、豊かな感性を伸ばしてほしい。自分に自信をもち、仲間と語り合い、お互いを高め合い、支え合えるような人間になってほしい。子どもたちの人間としての成長、これが私たちの一番の願いだ。そんな願いを込めて、龍の子学園は「人間教育を！」という理念を掲げ、活動を開始した。

(引用ここまで)

天文や宇宙の学びを通じて「人間教育を！」、このことにUD天文教育の、そして本研究会の究極の目的があるといえます。

### 2. 今回の特徴

初回となった前回の会議では、共有(お互いを知ること)が中心でした。二回目となる今回、それをふまえ、共生(共に学ぶ)、そして共動(共に社会に貢献)を中心テーマにすえました。

幸いにして多数の方から講演申込がありました。おかげさまで、他ではなかなか聴けない、あるいはひとところで聴くことにはないような多くの講演を、まとめて聴くことができます。内容も、(視覚・聴覚)障害者教育、病院訪問活動、プラネタリウムの取り組み、国際連携、地域連携と多岐に渡ります。聴くだけでなく、出席者それぞれの思いを交換して議論を深めるため、グループディスカッションを、分科会に分かれて実施します。「話し合いを大切にする会合」というのが、前回から引き継いだ、本研究会の特徴です。

みなさん、これを機会に(声を)かけ合い、ネットワークを広げていきましょう。